

『丹波志』を讀もう

令和六年度

第一回

令和六年七月二十八日

葛野庄

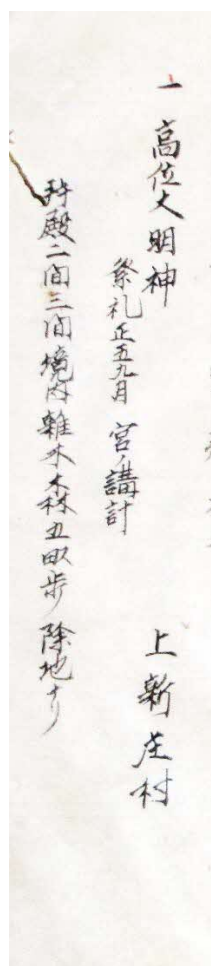
上新庄村

高位大明神

若王子社

神社部山西066 上新庄村 高位大明神（現高井神社）

19丁目右



068 上新庄村 若王子社（現若宮神社）

19丁目左



（書き下し）

ひとつ、高位大明神 だみようじん 祭礼正五・九月 さいれい 宮の講計り みや こうばか 上新庄村 かみしんじょうむら
はいでんにけん さんげん 境内雑木・森五畝歩除地なり けいだいざつぽく もりごせ ぶじよち
拜殿二間・三間

（現代語訳・大意）

一、高位大明神 祭礼は正月五日と九月 宮の講だけである 上新庄村
拜殿は二間×三間である。
境内の雑木、森五畝歩は年貢免除地である。

（書き下し）

ひとつ、若王子社 かみしんじょうむら 上新庄村
雑木・森二拾四歩除地

（現代語訳・大意）

一、若王子社 上新庄村
雑木、森二十四歩は年貢免除地である。

【参考】

『兵庫県の地名Ⅰ』 上新庄村「現」氷上町上新庄

産土神は宝暦三年（1753）再興の天満神社であった（丹波志）。

祭礼には三番叟を奉納する。高井神社（江戸時代は高位大明神）は明治四十一年（1908）若王子神社を合祀し、新しく産土神とされた（氷上郡志）。

08）若王子神社を合祀し、新しく産土神とされた（氷上郡志）。

『丹波氷上郡志上巻』（S2）第二編地誌第八章町村誌 葛野村

産土神、無格社高井神社（少彦名命） 例祭 十月十七日

※無格社とあるが村社の誤りか？（松下注）

明治四十一年四月、若王子神社（少彦名命）を合祀す。

『兵庫県神社誌上巻』（S12） 村社 高井神社（氷上郡） 抜粋

鎮座地 葛野村上新庄南後山 （丹波志） 上新庄村

祭神 厳島姫命 *少彦名命

由緒 創立年月不詳にして明治六年十月村社に列せらる。

〔丹波志〕 高位大明神 拝殿二間三間

〔神社明細帳〕 同村若宮神社ヲ明治四十一年四月二十八日合併済

境内 二百三十五坪 官有地 （丹波志） 境内雑木森五畝歩除地ナリ

営造物 本殿 檜皮葺流造五坪 本殿覆 七坪

拝殿 瓦葺入母屋造八坪（調書ニヨル）

祭日 例祭 十月十七日

〔神祇調書〕 頭神事ありて祭典後神酒下をなし拝殿に於て御頭渡式を行ふ

氏子 五十五戸 崇敬者 五十戸

『葛野村誌』（S44）第十二章社寺旧跡 高井神社（上新庄）

祭神は厳島姫命、少彦名命

由緒 創立年不詳（旧村誌三二四年前を推定すれば文禄の末期、正保二年（1645）に火災）、文久二年（1862）九月三日焼失。慶応二丙寅年（1866）

に再建。明治六十一年十月村社に列し、明治四十一年四月十三日若宮神社を合祀する。

※兵庫県神社誌所収神社明細帳では四月二十八日に合併とあり（松下注）

上新庄字後山にあり。旧記・高井神社とも書く。

境内は稲荷神社、祭神は稲倉魂命。愛宕神社。

（附記）高山寺の古棟札によると元治元年（1864）再興、覚明上人遷宮すとある。

祭礼 陰暦正月九日に宮の講を行ない、高井神社は陰暦九月五日湯立、若宮神社

は九月九日に芝居の催しがあるのを例とした。明治四十年ごろより十月十六日に

改め、大正十年より十月十七日となる。

（附記）当村荻野氏の蔵書によると荻野氏の先祖・彦兵衛景綱、文禄二年（1593）

に信濃国高位郡より先祖の霊を奉迎して上新庄村山頭に祭祀し、高井大明神と奉崇

すとある。そのためか、宮の講は精進料理を例とする。

若宮神社は若王子社とも称し創立年不詳、正保三年（1646）十二月再建、明治

四十一年四月高井神社に合祀せられ字西山に旧址がある。旧社殿は中村八幡神社へ

譲渡する。昭和二十年七月本殿を造営し、若宮神社旧址に高井神社合祀の御分霊を祭

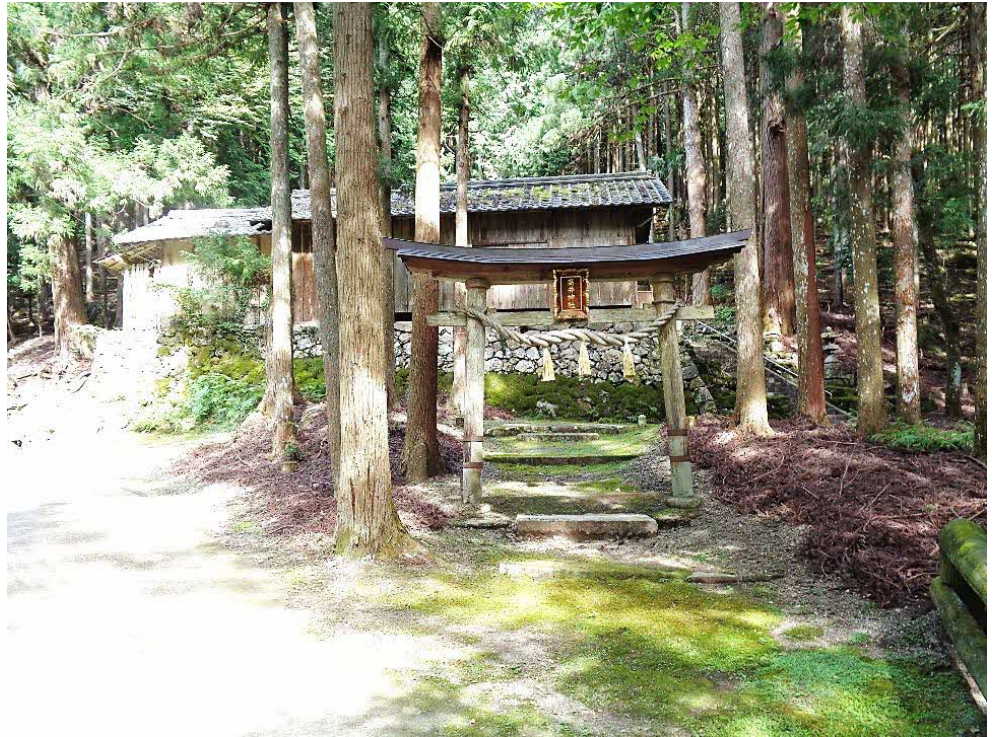
神として祀る。神官は梅本馨、工匠は高橋源治。再建の主意は日華事変より太平洋戦

争の間、西山より応召して戦没したものが九名にもなり世間の不審をいだいたので

再興を図った。



鳥居の扁額は
「高井神社」



鳥居の向こうに見えるのは、舞堂。
『兵庫県の地名Ⅰ』には「祭礼には三番叟を奉納」とある。



石燈籠の竿には
「高位大明神」とある。
「延享四年丁卯」(1747)の
年号が入っている。
上部は崩れているが、
江戸期の社名を刻む
貴重な存在である。



『丹波市の歴史的建造物Ⅲ』によると
「本殿は一間社流造、軒唐破風付、19 世紀前期の建築」とのこと。



本殿向って右には稲荷社→
向って左には愛宕社←





本殿は見ごたえのある彫刻で装飾されている。
左の脇障子に「中井清次良橘正用」の銘がある。
中井正用は幕末から明治に活躍した中井権次一統の彫刻師。
正面には牛を牽く童子と、龍の彫刻が据えられている。

石造の獅子狛犬は口角が上がり鼻が丸いという顔の特徴や、扇形の先に巻き毛を配する尾の意匠が浪速型の系統である。
狛犬（吽像）の足元に玉を抱える子狛犬がいるのは、浪速型では珍しい。

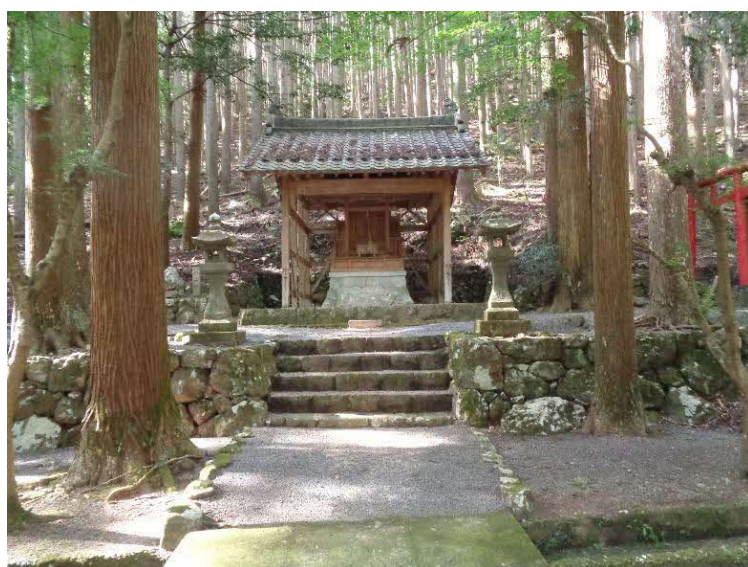


境内社である愛宕神社に掛けられた鰐口には表面に「上新庄村 若連中」裏面に「寛政四年（1792）子七月日」と刻まれている。





高井神社の前を流れる小川に橋が架けられ、
その奥の森に若宮神社が鎮座している。



『葛野村誌』によると、若宮神社は、一旦、明治四十一年に高井神社に合祀され、字西山に旧址があるが、昭和二十年七月に再建されたとのこと。「日華事変より太平洋戦争の間、西山より応召して戦没したものが九名にもなり世間の不審をいだいたので再興を図った」と再建の理由が示されている。



石燈籠の正面には「御神燈」、左側面には「安永九子(1780)三月吉日」と江戸時代の年号が刻まれている。

また右側面には「大坂願主 永尾究兵衛 長兵衛 善七 上坂橘吉 岩藤吉兵衛」とある。

